Komatsu Research & Advisory

335 Cannon Hill Lane
London SW20 9HQ
info@komatsuresearch.com
www.komatsuresearch.com

レポート

2010年4月20日

英国総選挙2010：自民党支持率急上昇

15日に行われた第1回党首テレビ討論以降、第三党の自民党の支持率上昇が続いている。中には保守党をも抜いて自民党が首位に立つ世論調査結果も出てきており、選挙戦はかつて例を見ない三つ巴の闘いになってきた。意外な展開に、メディアの政治記者・評論家や、保守・労働、そして当の自民党も当惑している様子。（次頁添付：政党支持率グラフ）

小選挙区制と選挙区割りの不均衡とにより、たとえ自民党が全国支持率でトップに立っても、直接議席には反映されない。「1.自民、2.保守、3.労働」という直近の世論調査で議席数を推計すると、労働党が第1党（過半数は取れない）、保守が第2党、自民が第3党になると見られている。すなわち支持率第3位の労働党が議席数第1位となる訳で、その場合、「国民から最大の為政権(mandate)（注）を与えられた政党が政権に就くのが道理」と繰り返している自民党はジレンマに立たされ、労働党と連立政権を組むことは難しくなるかもしれない。いずれにしても「民意を反映しない」現行の小選挙区制度に対する一般国民の関心を高める効果があり、自民党が強く主張する選挙制度改正が今後避けて通れなくなりそうである。

（注）この場合「マンデート」が意味するのが得票数/率なのか議席数なのかを、自民党は敢えて明らかにしていない。

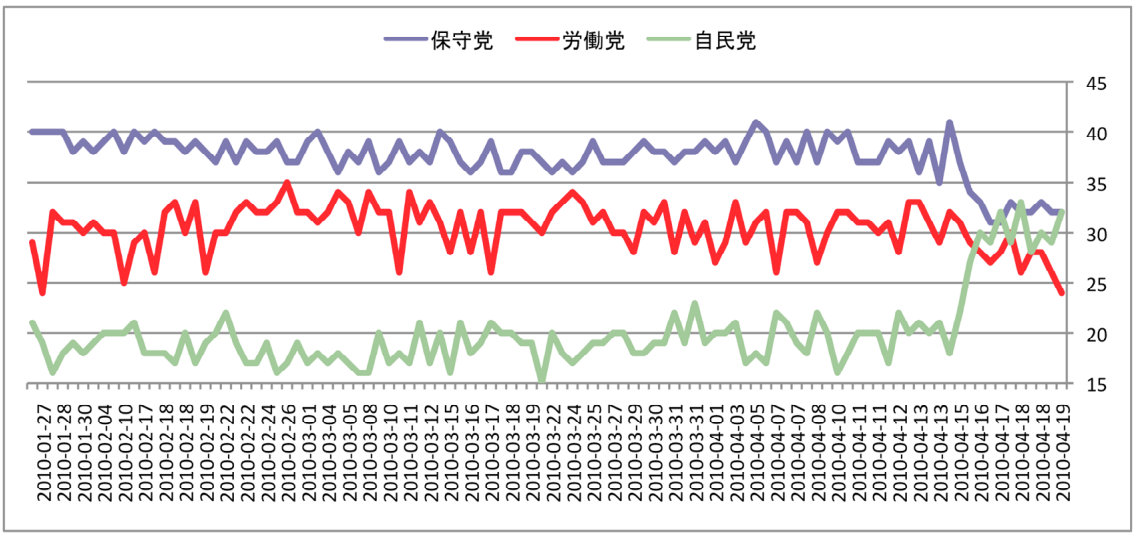
党首テレビ討論で功を奏して以来、自民党の戦術は「旧態然とした時代遅れの二大政党（＝労働党・保守党）」を批判し、真の「変化(change)」を実現できるのは「アウトサイダー」の自民党であると強調すること。昨年の議員の経費スキャンダル以来既存の政治権力機構全般に対して愛想尽かしをした政治離れ層や若者を中心とする政治無関心層にうまくアピールした。急激に盛り上がった自民党に対する熱狂を、大統領選におけるオバマ・ブームになぞらえる報道も散見される。

「変化」のお株を奪われた保守党は、自民党躍進の結果起こるであろう「ハング・パーラメント」に対する危機感を煽る戦術に切り替え、YouTubeを使った党首メッセージで有権者に訴え。労働党は比較的落ち着いた構えで、最終的に選挙は「スタイルでなく内容(substance)」の選択であるとして、自民党の政策の弱点をついていく方針。自民躍進はむしろ保守党の議席数に不利な結果に出ることも、両党の反応の違いとなって現われている。

本稿の内容については可能な限り正確を期していますが、万が一誤謬があった場合、Komatsu Research & Advisory（以下KRA）は一切の責任を負いません。本稿の内容は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、KRAの統一的な見解を示すものではありません。情報や見解は、予告なしに変更することがあります。本稿からリンクを張っている第三者のサイトのコンテンツに関しては、KRAはいかなる責任も負いません。本稿の内容を利用したことで生じるいかなる不都合や損害についてもKRAは一切の責任を負いませんのでご了承下さい。

当面の注目は22日（木）の第2回党首テレビ討論。前回のテレビ討論では、常にTVカメラを真っ直ぐに見てお茶の間の有権者に対して話しかけた自民党クレッグのパフォーマンスが評価された。現在選挙戦の流れは政策論争でなく党首のTVパフォーマンスを契機に大きく動いており、「Xファクター（TVの人気オーディション番組）選挙」と嘆く向きもある。移り気な有権者のムードが5月6日の投票日へ向けてどう動くのか、文字通り何が起こってもおかしくない、先の読めない選挙になってきた。

図：政党支持率の推移（%）



出所）UK Polling Reportのデータを元にKRA作成

井上　貴子（問合せ：tinoue@komatsuresearch.com）